

第2章 基本構想

1. 新しいまちづくりの目標

(1) 基本理念（美祢市が目指す10年後の姿）

新しい美祢市は、市民生活の基本となる医療・福祉の充実や都市基盤・交通環境の整備など、市民の「安全・安心」の確保を大前提にまちづくりを考えます。

また、教育環境の充実や、歴史・文化の継承、地域を支える担い手の育成など、「ひと」を大切にしたまちづくりを推進します。

更に、豊富な地域資源や観光資源を活かした、交流人口の拡大、観光産業の振興など、「観光交流」に軸足を置いた、地域の発展を図ります。

加えて、地域資源の連携強化により、新産業や地域ブランドの創出や、雇用の創出などにつながる「産業」の振興に取り組みます。

これらの新しい美祢市のまちづくりを支える基盤として、効果的・効率的な財政運営や、的確な行政サービスの提供など、「行財政運営」の強化を図ります。

このように、『市民が『夢・希望・誇り』をもって暮らす交流拠点都市 美祢市』を基本理念とし、「交流拠点都市 ～観光立市～」の創造を目指します。

図一 美祢市のまちづくりの基本理念



(2) 将来像

太古のロマンを思わせるカルスト台地「秋吉台」をはじめとした豊かな自然に抱かれた美祢市、そこに住む人々にとって、多くの地域資源と歴史と文化は誇りであり、また、この地を訪れる人々にとってはやすらぎと賑わいをもたらします。

基本理念で示した、『市民が『夢・希望・誇り』をもって暮らす交流拠点都市 美祢市』を象徴する将来像として、

自然と調和し、潤いと活力にみちたやすらぎと交流の郷
～太古のロマンに抱かれ、夢をはぐくむまちづくり～

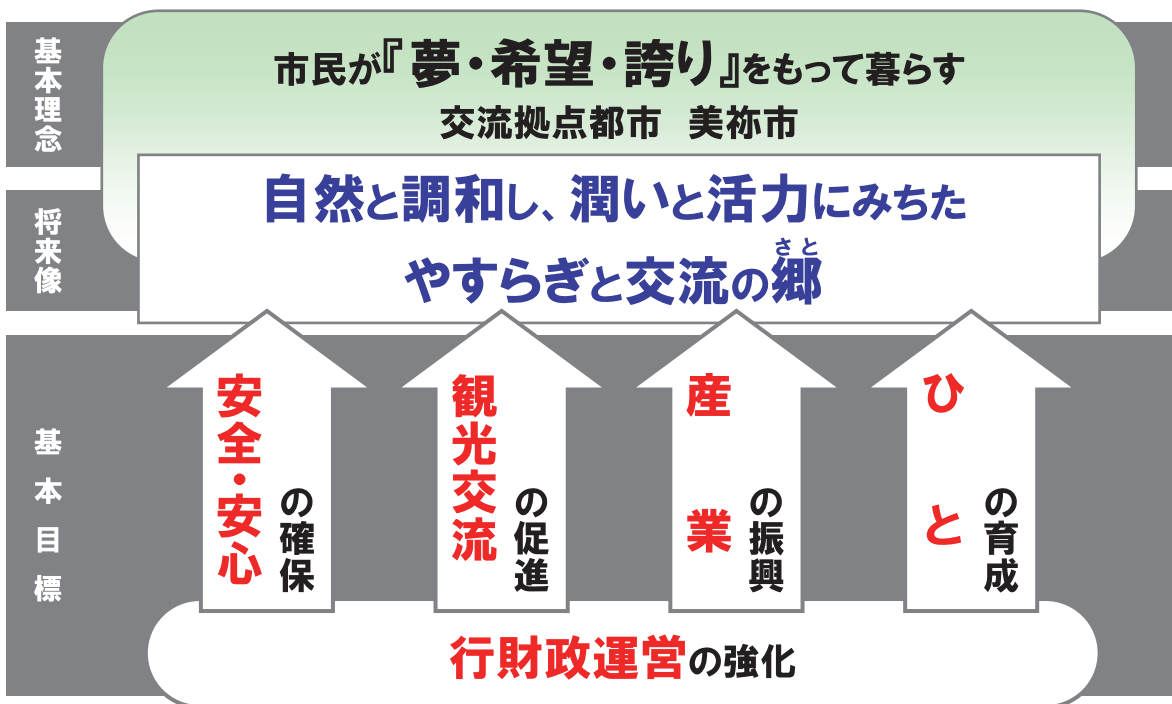
を掲げます。

(3) 基本目標

将来像を実現するまちづくりの目標として、以下に示す5つの柱を設定します。

- ① **安全・安心の確保** (医療・福祉の充実、都市基盤の整備)
- ② **観光交流の促進** (観光・交流の活性化、広域連携の強化)
- ③ **産業の振興** (地域産業の活性化、新産業の創出)
- ④ **ひとの育成** (教育環境の充実、歴史・文化の継承、人材の育成)
- ⑤ **行財政運営の強化** (行財政の効率化、協働のまちづくり)

図一 将来像を支える5つの基本目標



① 安全・安心の確保

市民生活の基本となる「安全・安心」の確保を図ります。

市民が安全に安心して暮らすことができるように、医療体制の充実を図るとともに、高齢者・障害者福祉環境の充実、子育て環境の充実を進めます。

また、公共交通の確保や上下水道の充実、環境対策など、生活の基盤となる都市整備を推進するとともに、豊かな自然環境の保全や調和に努め、定住環境の整備を行います。

- ◆ ひとにやさしい、医療・福祉が充実したまちづくり
- ◆ 市民生活の基盤が充実した、自然と共生したまちづくり
- ◆ 誰もが安心して住める、やすらぎのあるまちづくり

② 観光交流の促進

日本有数の恵まれた観光資源、かつ豊かな歴史的資源や農林資源、また、人情味豊かな人的資源、さらには充実した広域交通網などの特性を活かして、誇りうる美祢市の創成の核として、「観光交流」の促進を図ります。

既存の観光資源の連携・強化による観光拠点としての底上げを図るとともに、周辺観光地との連携による交流の拡大、観光産業の育成による受け皿の整備を行い、より一層の観光の振興を行います。

- ◆ 観光資源の強化と創造による、観光振興のまちづくり
- ◆ 広域連携の強化による、交流拡大のまちづくり
- ◆ 観光産業の育成による、おもてなしのまちづくり

③ 産業の振興

雇用を生み、経済を活性化する、「産業」の振興を図ります。

中山間地域に位置し、豊かな地下資源、自然資源に恵まれた美祢市は、農業をはじめ、林業、商工業など多種多様な地域特性・地域資源があり、これらの連携による、産業の活性化や新産業の創出、ブランド推進による付加価値化など、地域の特性を活かした産業の振興を行います。

- ◆ 地域資源を活かした、多様な産業と活力にあふれたまちづくり
- ◆ 地域資源の連携による、新しい産業を創出するまちづくり
- ◆ 地域資源の付加価値を生むまちづくり

④ **ひと**の育成

地域を支える担い手となる「ひと」の育成を図ります。

少子化、高齢化、人口減少が進む中で、地域を支える担い手が不足していることから、次世代を育む教育環境の充実や、地域に伝わる歴史・文化の継承、地域活動を支える担い手の育成など、人を大切に育てます。

- ◆ 地域に根付く次世代を育む、教育環境の充実したまちづくり
- ◆ 地域特性に培われた、歴史・文化を継承するまちづくり
- ◆ 地域を支える担い手を育てるまちづくり

⑤ **行財政運営**の強化

美祿市のまちづくりを進める上で、基盤となる「行財政運営」の強化を図ります。

低迷する地域経済の中、選択と集中により、特に力を入れて解決すべき課題への効果的な投資や、効率化を進め、経営感覚をもった財政運営を実施します。

さらに、市民生活を支えるため、効率的かつきめ細かな質の高い行政サービスを実現します。

そして、市民と行政が「協働」でまちづくりを行うシステムづくりを行い、両者の役割と責任を明確化し、開かれた行財政運営を行います。

- ◆ 効率的・効果的な財政運営によるまちづくり
- ◆ 質の高い行政サービスによるまちづくり
- ◆ 市民が主役の協働のまちづくり

2. 将来指標

(1) 人口

【目標人口】
 平成 31 年の目標人口を **30,000 人** と設定します。

全国的に人口減少社会に転じる中、美祢市においても人口減少傾向が続くものと考えられます。平成 20 年 12 月 24 日に、国立社会保障・人口問題研究所が公表した、市区町村別推計によると、平成 32 年には 24,139 人にまで人口が減少すると推計され、高齢化率も平成 32 年には 41.5%に達すると推計されています。

美祢市は、この推計人口にこれからの施策展開による人口増加分を合算し、平成 31 年の目標人口を 30,000 人と設定します。

表一美祢市の目標人口の検討

	人口 (実績)	推計人口 ①	施策増加 ②	合計 ①+②
昭和60年	35,730			
平成2年	33,528			
平成7年	32,396			
平成12年	31,546			
平成17年	29,839			
平成22年		27,977	2,029	30,006
平成27年		26,089	3,493	29,582
平成31年		24,529	5,193	29,722
平成32年		24,139	—	—

推計人口と施策増加による平成 31 年の人口は 29,722 人となる。
 さらに、市民が夢・希望・誇りがもてる美祢市を創造していくことで、定住の傾向が強まることを期待し、目標人口を 30,000 人と設定する。

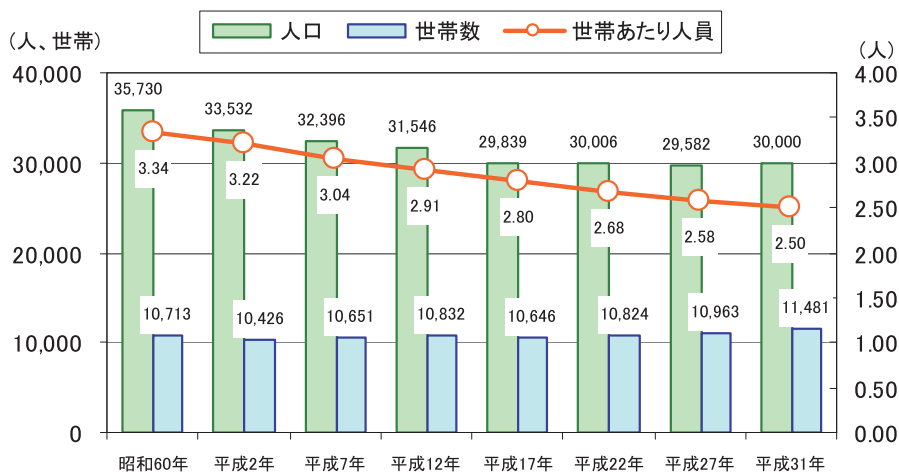
⇒ **30,000 人**

※推計人口は『日本の市区町村別将来推計人口』(平成20年12月推計) 国立社会保障・人口問題研究所

(2) 世帯数

過去 5 ポイント (昭和 60 年～平成 17 年) での世帯規模の推移より、将来的な世帯規模を算出し、予測人口より割り戻すことで世帯数を推計すると、平成 22 年では 10,824 世帯、平成 31 年では 11,481 世帯となると推計されます。

図一美祢市の将来人口と世帯数の推移

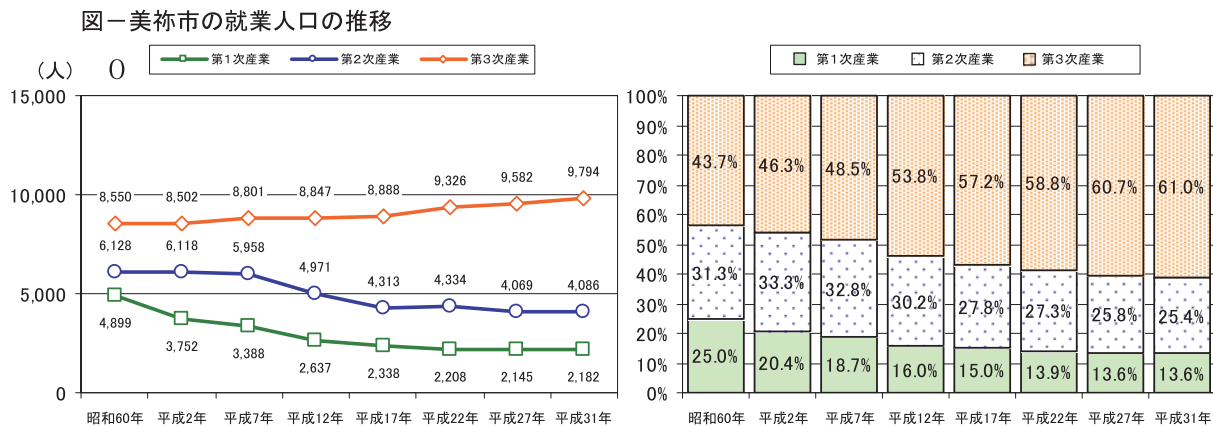


※平成 22 年の世帯数予測 : $\{(\text{予測人口} - \text{矯正施設収容者}(1,000 \text{ 人})) / \text{世帯あたり人員}\} + 1$
 ※平成 27 年以降の世帯数予測 : $\{(\text{予測人口} - \text{矯正施設収容者}(1,300 \text{ 人})) / \text{世帯あたり人員}\} + 1$
 ただし、平成 31 年においては予測人口を目標人口に置き換えて算出

(3) 就業人口

過去5ポイント（昭和60年～平成17年）での就業人口について、総人口に対する産業人口の割合の推移より、予測人口に対する産業人口の割合を算出し、予測人口より割り戻すことで産業人口を推計すると、第3次産業人口はこれまで同様に増加傾向にあります。第1次産業人口は減少傾向から、微増に転じています。

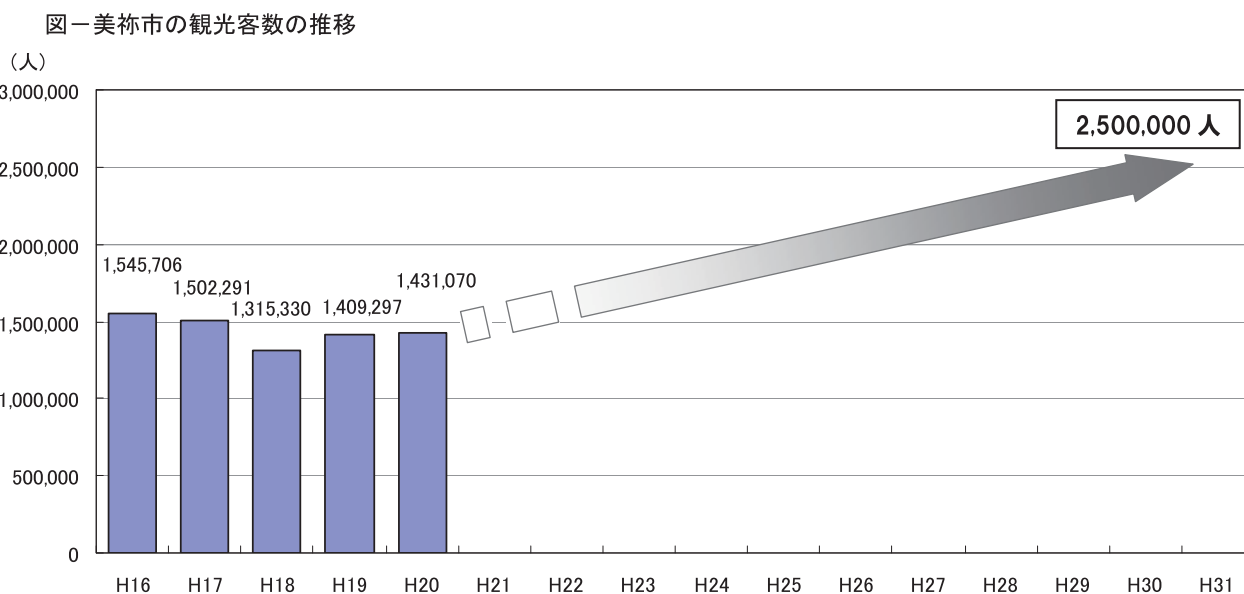
構成比で見ると、第3次産業は増加傾向にあり、第1次産業は減少傾向から、横ばいとなっています。



(4) 観光交流人口

観光客数は平成19年で増加に転じています。

トレンドによる回帰式では適当な推計結果が得られないことから、近年の増加傾向を踏まえながら、今後の地域経済の活性化、新たな雇用創出などの期待を込めて、平成31年の観光客数は250万人を目標と設定します。



(5) 土地利用構想

美祢市の将来像を実現させるため、土地利用構想を2つの軸（広域観光連携軸、生活連携軸）と3つのゾーン（観光活性化ゾーン、生活市街地ゾーン、自然活用・保全ゾーン）、3つの拠点（観光交流拠点、生活安心拠点、活性化活用拠点）で構成します。

① 美祢市の骨格を形成する2つの軸

広域観光連携軸

広域観光連携軸は、隣接する観光地（下関市、長門市など）との広域的な連携を強化する軸として、中国自動車道や小郡萩道路などの広域高速道路網、また、JR美祢線などを位置付けます。

生活連携軸

生活連携軸は、市民の安全で安心できる暮らしを支えるとともに、各地域の連携を高め、美祢市の一体感を醸成する軸として、国道、主要地方道、バス路線など、生活に不可欠な路線を位置付けます。

② 美祢市の基盤を構築する3つのゾーン

観光活性化ゾーン

観光活性化ゾーンは、美祢市の観光交流を支えるゾーンとして、カルスト台地をはじめとする観光立市を支える美祢市の多くの観光資源について、ある程度のまとまりがあるエリアを位置付けます。

生活市街地ゾーン

生活市街地ゾーンは、市役所や総合支所を中心に、市民生活を支える市街地を形成し、居住地としてまとまりがあるエリアを位置付けます。

自然活用・保全ゾーン

自然活用・保全ゾーンは、山・川、地下資源など豊かな自然資源について、地球環境への負荷を軽減できるように、環境を保全していくとともに、農業・林業、鉱業などの産業振興につなげるために、資源を活用するゾーンとして、山林、農地などを位置付けます。

③ 美祢市の元気を創造する3つの拠点

観光交流拠点

観光交流拠点は、美祢市の観光交流を支える拠点として、美祢市に点在している特徴ある観光資源を位置付けます。

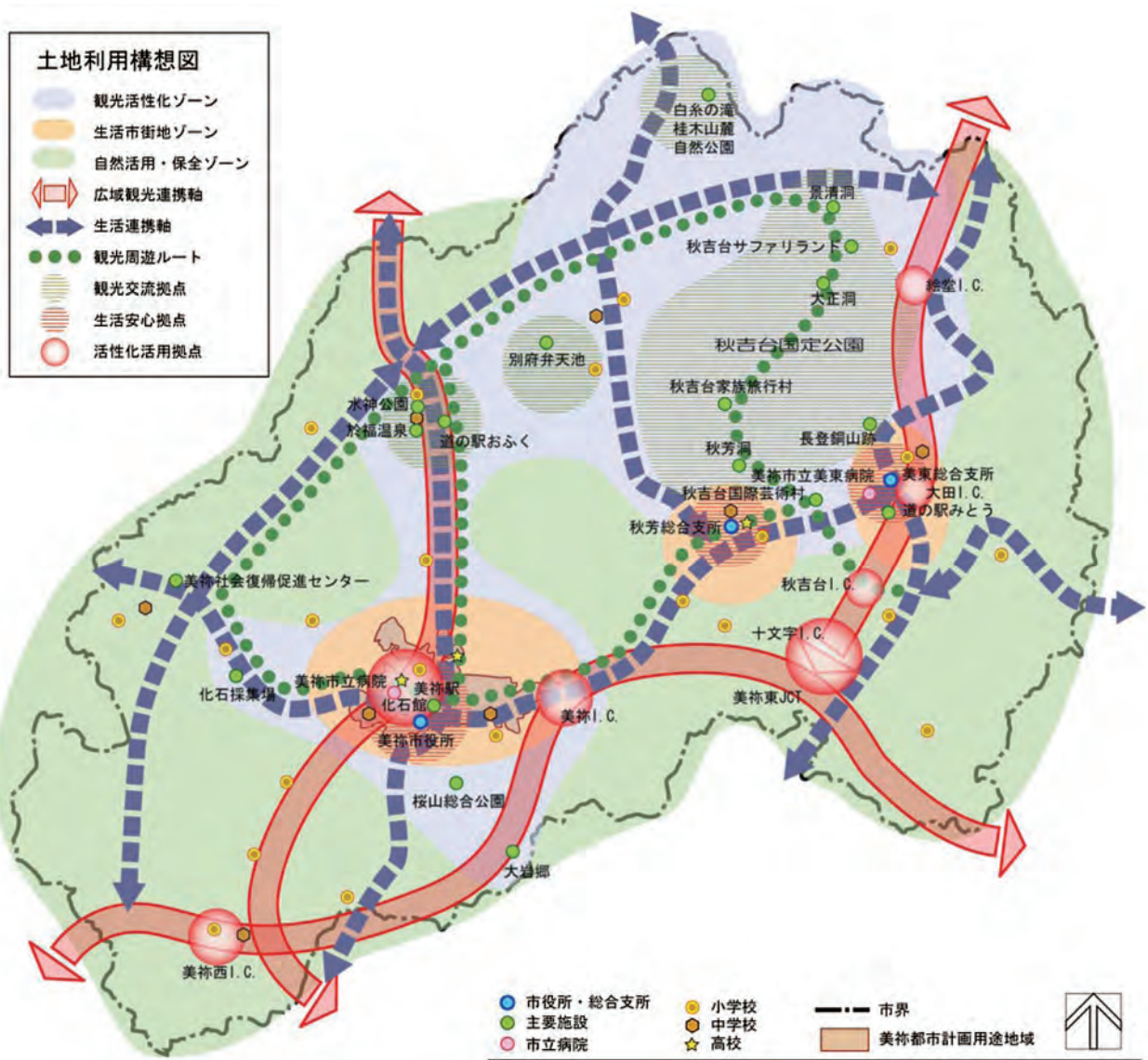
生活安心拠点

生活安心拠点は、市民の生活を支える拠点として、市役所や総合支所を中心に、地域の中心地を位置付けます。

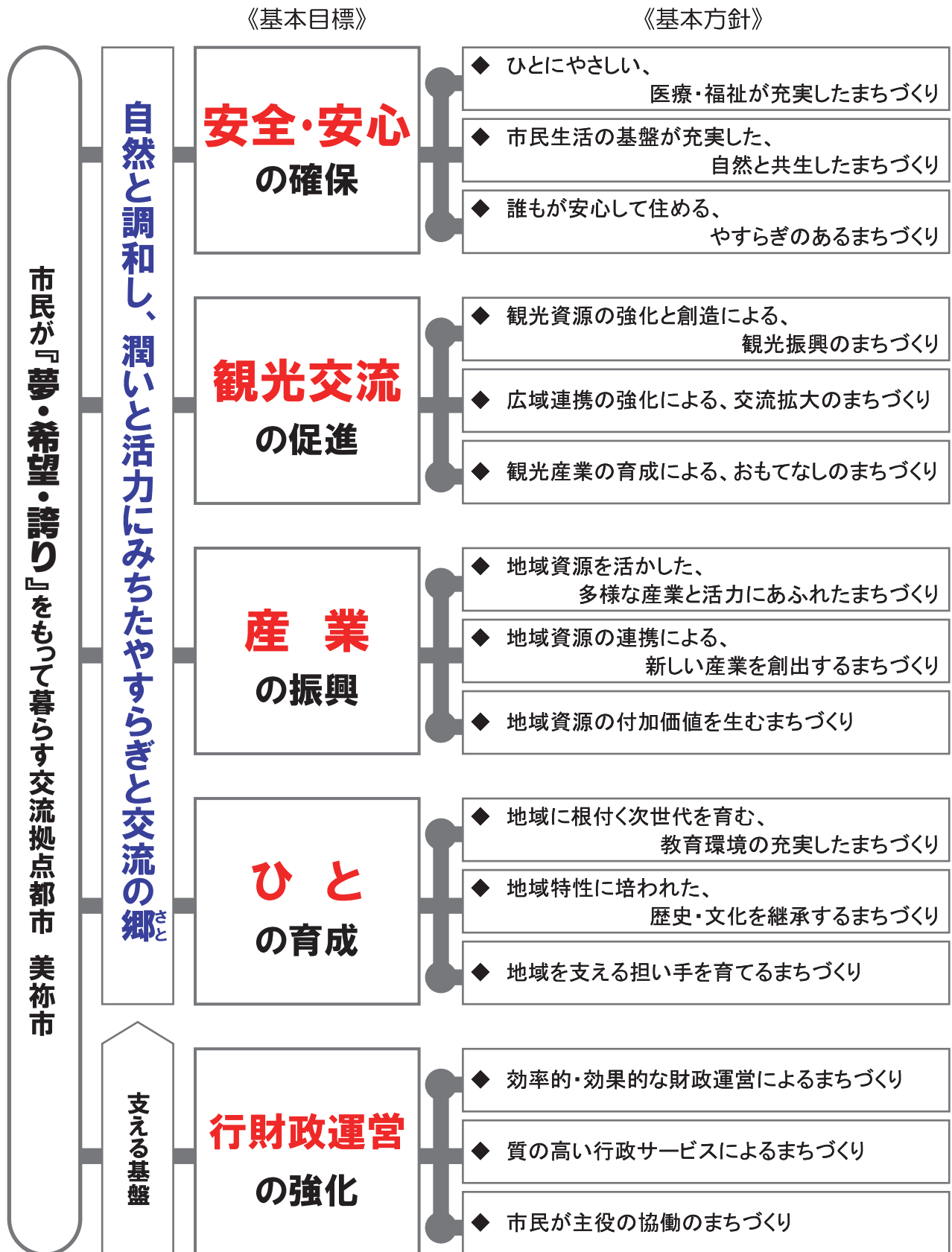
活性化活用拠点

活性化活用拠点は、市民の生活の利便性の向上や広域と連携した観光交流の推進、産業の振興など、将来的な美祢市の活性化を担う拠点として、小郡萩道路インターチェンジ周辺やJ R美祢線の美祢駅などの広域交通結節点を位置付けます。

図一 土地利用構想図



3. 施策の大綱



4. 重点戦略プロジェクト

市民の『夢・希望・誇り』が^{きら}燦めく。
交流拠点都市プロジェクト

今後、10年間の新しい美祢市のまちづくりを進めていく上で、行財政運営の強化を積極的に図りながら、安心して子どもを育てられる環境づくり、福祉の充実、公共交通の利便性向上など、市民が定住できる生活環境を確保することに重点をおき、市民生活の「安全・安心の確保」に努めるとともに、将来の美祢市を担う「ひとの育成」に力を入れ、美祢市への愛着の向上、歴史文化の継承、教育環境の充実など、新しい美祢市の土台づくりに努めます。

それらの土台づくりを前提として、市民が「夢・希望・誇り」がもてる美祢市を創造するために、他には無い特徴ある地域資源を最大限に活かした「観光交流の促進」や「産業の振興」により、地域経済を立て直し、若者が将来にわたって、夢や希望をもって住み続けることができる、誇りを感じられる美祢市を創造していくための切り口として、「交流拠点都市」の創造を最重点テーマとしたまちづくりに取り組みます。

この「交流拠点都市」の取り組みにより、新しい観光交流の推進や地域産業と観光産業との連携による新産業の創出、地域産業を活かした交流事業の創造など、交流人口の拡大と地域産業の活性化を実現し、雇用の創出や経済の底上げが図られ、定住できる美祢市を創造します。

図一重点戦略プロジェクト

